



子どもたちが 思ったこと 感じたこと

今回の記念誌では子どもたちの声もぜひ聞きたいと思い、アンケートをお願いしたところ、9名の人たちが答えてくれました。年齢も状況も様々です。振り返るのがしんどいこともあったかもしれません。そんなみなさんの貴重なお話をここに掲載させてもらうことにより、不登校渦中の子どもたちが少しでも楽になることができればと思います。

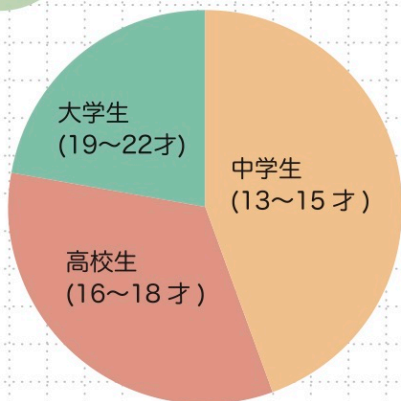
答えてくれたみなさんにこの場を借りてお礼申し上げます。

また、回答とはならずとも、このアンケートに向き合い、様々な思いを巡らせて考えてくれた方々にも感謝申し上げます。どうもありがとうございました！

以下の回答については、子どもたちの話をできるだけそのまま載せています。

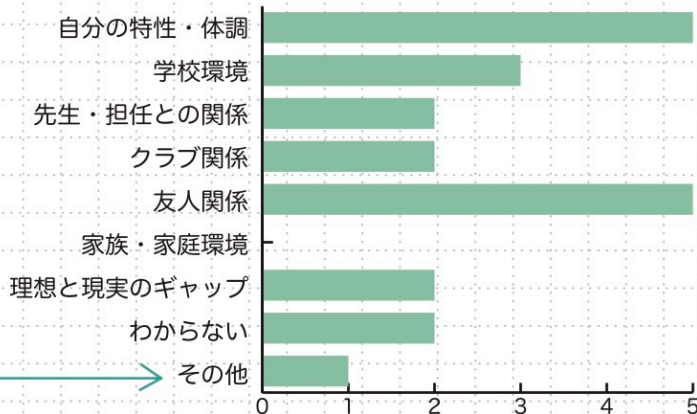
Q1

今のあなたの年齢は？



Q2

原因・きっかけは何だった？ (複数回答可)



Q3

Q2 その他と答えた方は詳しく書けるようでしたらお願いします。

- ▶ 特になし
- ▶ ただ家を出るのがイヤだった。行けば誰とでも喋って楽しかった。

Q4

学校の何が？何の時間がイヤだった？

- ▶ 人の多さ
- ▶ 学年の状態 (学年崩壊)
- ▶ 給食
- ▶ 先生が怒ること
- ▶ 担任
- ▶ だいたい全部が嫌だった
- ▶ 勉強
- ▶ 集団行動
- ▶ 周りの音
- ▶ 学校が嫌ではなかった

Q5

学校に行かなくなった最初の頃、一日何をして過ごしてた？

- ▶ YouTube
- ▶ 映画
- ▶ アニメを見る (同じものを繰り返し見ていた)
- ▶ インターネット
- ▶ 漫画
- ▶ ゲーム
- ▶ 最初の頃がいつかわからない

Q6

今、一日何をして過ごしている？

- ▶ バイト
- ▶ 来迎寺 (子どもの居場所)
- ▶ ゲーム
- ▶ 放課後等デイサービス
- ▶ 居場所へ行ったりしている
- ▶ YouTube
- ▶ SNS、スマホ
- ▶ 学校
- ▶ アニメを見る
- ▶ 絵を描いている
- ▶ 趣味
- ▶ 漫画



Q7

親から言われて(されて)イヤだったことは？

- ▶ 「学校に行け!」「他の子も辛い思いをしながら学校に行っている」と言われたこと。
- ▶ 家庭内の雰囲気がイライラしていたこと。
- ▶ 仮病で行っていないと思われていたこと。
- ▶ 無理やり家から連れ出されたこと。
- ▶ 病院やカウンセリングに次から次へと連れていかれたこと。
- ▶ 自分の気持ちは置き去りにされていたこと。
- ▶ 何度も同じことを聞かれたこと。
- ▶ 無理やり連れていかれたけど、今では良かったと思っている。
- ▶ あったと思うけど、覚えていない。
- ▶ 特になし。

Q8

親から言われて(されて)嬉しかったことは？

- ▶ 両親は優しく見守ってくれていたこと。
- ▶ 新しい自転車を買って外出の機会を増やしてくれたこと。
- ▶ 不登校の話題に触れなかったこと。
- ▶ 学校に行かない選択を許してくれたこと。
- ▶ 「学校に行かなくて良いよ」と言ってくれたこと。
- ▶ 家で過ごしやすいようにしてくれたこと。
- ▶ 自分のことをわかろうと話を聞いてくれたこと。
- ▶ 都合が合えば一緒に遊んでくれたこと。

Q9

先生から言われて(されて)イヤだったことは？

- ▶ 先生からの電話や訪問。
- ▶ 家から引きずり出されそうになったこと。
- ▶ 色々ある。先生とは相性が良くなかった。
- ▶ たくさんあって覚えてない。
- ▶ よく覚えてないけどないと思う。
- ▶ 特にない。
- ▶ 他の子が怒られているのを見たり聞いたりすること。
- ▶ 先生の考えや学校での状態だけで判断されたこと。
- ▶ 学校に登校した様子だけで部活などに参加できると判断されたこと。

Q10

先生から言われて(されて)嬉しかったことは？

- ▶ 放課後や夜に勉強を教えたり卓球をしてくれたこと。
- ▶ 写真好きな先生から写真をもらったこと。
- ▶ 少ない会話で気にかけていることを伝えてくれたこと。
- ▶ 行動の選択肢をたくさん用意してくれたこと。
- ▶ 家に来て、将棋やゲームや趣味に付き合ってくれたこと。
- ▶ 月一日や週一日、家に来てくれたこと。
- ▶ 特にない(3名)



Q11

その他の人(友人・祖父母など)から言われて(されて)イヤだったことは？

- ▶ 可愛がっていたペットが死んだのをからかわれたこと。
- ▶ こちらの気持ちなどを全く無視した大人の押し付け的な言動。
- ▶ 同級生や先輩に嫌なことをされ、それがだんだん激しくなったこと。
- ▶ 友人の自分本意な声かけ。
- ▶ 先生に頼まれてプリントなどを持ってくる同級生。
- ▶ 久しぶりに登校した時にみんなが集まってきて、色々言われること。
- ▶ 体調よくてたまに登校できた時「来れるなら毎日来いよ」と言われたこと。

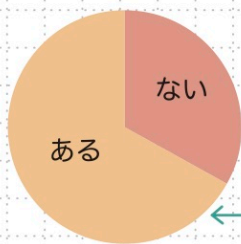
Q12

その他の人(友人・祖父母など)から言われて(されて)嬉しかったことは？

- ▶ 趣味が同じ祖父と一緒に遊べたこと。
- ▶ 心配してくれた祖父が手紙をくれたこと。
- ▶ 普通に遊ばーって来てくれた友だちと一緒に遊んだこと。
- ▶ 話を聞いてくれたこと。
- ▶ 自分のことも話してくれたこと。
- ▶ 色々付き合ってくれたこと。
- ▶ オンライン友だちとゲームで遊んだこと。
- ▶ 優しく接してくれたこと。

Q13

あなたにとって、学校や家庭以外に居場所や
出かけるところがあります（ありました）か？



Q14

Q13 あると答えた人はどんなところ？

- ▶ 放課後等デイサービス
- ▶ 趣味のお店
- ▶ 来迎寺（子どもの居場所）
- ▶ カウンセリング
- ▶ 地域の子育て関係 NPO 法人

Q15

来迎寺へ行っている方へ。
他の居場所との違いと来迎寺の良い点はどんなところ？

- ▶ 部屋の雰囲気良くて落ち着く。
- ▶ 何をしてもよいし、何もしなくてもいい自由なところ。
- ▶ 話し相手、ゲーム相手、トランプ相手、麻雀相手、百人一首相手、卓球相手などそこには必ず誰か遊び相手がいる。

Q16

以前の自分と比べて
元気になったなあと思われる方へ。
元気になったきっかけは？

- ▶ 新たな居場所で人との交流ができたこと。
- ▶ 学校以外（オンラインゲームや SNS で）の友だちができたこと。（3名）
- ▶ 居場所に行けたことで仲間ができたこと。
- ▶ 同じ趣味で集まる人たちと過ごすこと。
- ▶ 休息できる時間が十分にあったこと。
- ▶ 自分の気持ちに正直になれるようになったこと。

Q17

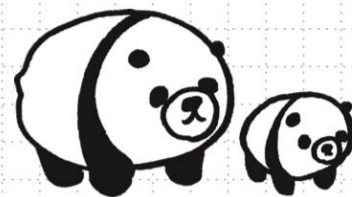
今の世の中に、親に、学校に言いたいこと。
愚痴、不満、伝えたいこと、何でも。

- ▶ 辛いのはみんな同じだと言われる。
- ▶ もっと不幸な人たちと比べられた。
- ▶ 頭の固い大人はウザイ。
- ▶ 誰もが素でいられる学校環境を作ってほしい。（失敗することが許される雰囲気など）
- ▶ 自分のことを棚に上げないでほしい。

Q18

今学校に行っていない、行けていない人に何か伝えたいこと、
かけてあげたい言葉はありますか？

- ▶ 体力が落ちるから少しでも家から出た方がいいよ。
- ▶ 趣味をみつけて。
- ▶ 行かなくちゃ自分はダメだとか焦らないで、なんとかなるって軽い気持ちでいて。
- ▶ 学校で習う勉強はできなくても人とのコミュ力はあった方がいいよ。
- ▶ 考えることを放棄しないで、考える癖をつけて、今日楽しめることを考えよう。
- ▶ わからないことは本やネットで調べる、もしくは人に聞いて教えてもらう。
- ▶ 思った以上に時間はあるから安心してほしい。
- ▶ 今の自分の考えや思ったことを書き出すと整理できるし、見返すこともできる。変化を感じられて良いですよ。
- ▶ やって後悔するようなことはしないで、やらなくて後悔することもないようにして。
- ▶ かけてあげたい言葉というか、自分以外の人がなんで不登校になったのか？ どう感じて生きているのかを教えて欲しい。



しくじり座談会

しくじりさん
子どもの不登校について
あれこれ悩み、つい
しくじりママさん。



綾マコさん
大地の人の「集合知」
(知識の蓄積)を
人格化したお方。
「誰に先 誤ちは
あるものよへ」が
ロゴセ。

つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾マコ(以下綾) さて、今日は以前に
大地の会で集計したアンケートの
中から、「子どもの発する SOS」
と「それに対してどう対応してし
まったか」を取りあげましょうか。
しくじり(以下しく) …ま、まさに私が
やってしまったことと、ガツンと真
正面から向き合う企画だ…
つまづき(以下つま) まあまあ、しくじ
りさん、そんなに構えないで(笑)
気楽な気持ちでやりましょう。
綾 それではまず、子ども達の SOS
の訴えや様子について聞かせて。
つま そうですね。「朝起きられない」「学
校の準備をしなくなる」「子ども多い
みたい。今の私だったら、これらが
SOSだとわかるけど…。しくじ
りさんのところは、どうでした？

しくじりさん
綾マコさん
大地の人の「集合知」
(知識の蓄積)を
人格化したお方。
「誰に先 誤ちは
あるものよへ」が
ロゴセ。

綾 宿題に時間がかかるようにな
り、食欲がおちるというのも、
見すぎせないサインかも。「玄關
で体が動かなくなる」のも、心が
つらさを抱えているからよね。
しくじりさん
綾マコさん
大地の人の「集合知」
(知識の蓄積)を
人格化したお方。
「誰に先 誤ちは
あるものよへ」が
ロゴセ。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

① 子どもに「度々」させてしまっ
てる…。
綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

綾 誰にでも誤ちはあるものよ。
つまづきさん
時に不登校のわが子との
接し方に、つまづきながら先
見する努力を続けている。

親子の回復段階は、変化もいろいろ
あって、見通しを持つことがむずかしい時
もあるかと思いますが、しんどい時期をなるべく
「省略」「ショートカット」してもらえたらと思
います。そうすることで、エネルギーの消耗を
減らし、ぜひ
* 人生を豊かにすることに *
* エネルギーをまわしていただ *
ければ… * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *

私はあの時(行きしぶりだった時)
自分ができる最善を尽くしたつ
もりなんです。学校に行けた日
は、「友だちと楽しそうに過して
た」なんて担任の先生から聞い
たりすると、やっぱり行ってよか
たんだったと思うじゃないですか。
じゃあ一体、どうしたらよかっ
たんですかね、私…。
綾 すごく難しい問題よね…。どん
な選択をしてればよかったの？
で、みんな思ったことあるんじ
ゃない？ただ、どうしたらよか
たか、後で分かったとしても、自
分を責めないでほしいわ。き
と、遅かれ早かれ、つまづいて
いたんだと思うの。
綾 最後は、木下先生からのメッ
セージで締めたいと思います。

親が変われば 子どもも変わる

大地会員アンケート結果から見てきたこと

子どもが学校に行かない…となると、「この先どうなるの?」「このままでいいの?」「勉強はどうするの?」などなど、不安や焦りを感じない親はいないでしょう。でも… 想像してみてください。我が子の状態、様子に落ち込み、ため息をつき、心配顔や怒り顔の親を見て子どもはどんな気持ちになるでしょうか——
会員のみなさんがアンケートに答えてくださった言葉をピックアップしてまとめました。

親の変化 ▲ 子どものありのままを受け入れる

- 子どもの言うことを否定せず共感できるようになった。
- 失敗もピンチも成長のための経験と捉えることができるようになった。
- 「あるべき姿」にこだわらず、それぞれが生きたい生き方をするのがよいと思えるようになった。
- 人生いろんな選択肢がある、大丈夫と思えるようになった。
- 人と同じでなくていい、親も子もそれぞれ。いつからでもどんな方法でもやりたいと思えば学べる、と思えるようになった。

親以外の親族の変化 ▲ 理解というより認めてくれる

- 子どもは学校へ行くもの!と言っていた祖父が子どもの気持ちを優先するようになった。
- 不登校に触れない会話と気遣いをするようになった。
- 祖父母は干渉せず、不登校の子どもへの理解をしてくれていたように思う。
- 学校大好きな姉が、行きたくない気持ちはわからないけど、本人の気持ちを受け入れて否定しなくなった。

子どもの変化 ▲ 「認めてもらえた」と感じ気持ちを表せる

- したいこと、したくないことを自分の言葉で言えるようになった。
- 表情が明るくなってきた。思ったことを言ってくれるようになった。
- ゆっくり話ができるようになった。悩みを話してくれるようになった。
- 溜めこむ前に吐き出せるようになってきた。
- 好きなことを見つけ、上手になるために頑張り努力することを思う存分楽しむようになり、またそこから勉強に繋がっていった。

書籍や新聞、カウンセリング、そして親の会「大地」との出会い

- 不登校の道筋を知って救われたから
- 「学校に行くのが当たり前」と思わなくなったから
- 大地でみんな同じように悩んでいる、一人ではないと思えたから
- 大地では話を否定されず尊重してもらえたから。
- 自分は母としてこうあらねばならないと思わなくてよくなり、自信を取り戻せたから

なぜ
変わったの?

不登校になったからこそ できたこと

親子の時間

- のんびりゆっくり話ができ
- 困っていること、悩みや不安を言うようになった
- 料理を手伝ってくれた
- 子どものやりたいことを一緒に楽しめた
- 親に気遣いできるようになった
- 他愛のない会話ができるようになった

好きなこと やりたいことを 楽しむ

- ゲーム
 - 漫画
 - アニメ
 - 声優
 - ネット
 - アイドル
 - 音楽
 - 将棋
- 自分らしさを取り戻せた
→ 勉強や自信に繋がることも
→ 行動にできるきっかけも

考える時間

- 気持ちの切り替えができるようになった
- 自己分析(親も子も自分と向き合う時間)
- 勉強ってなぜ必要なの？
- 進路を考える

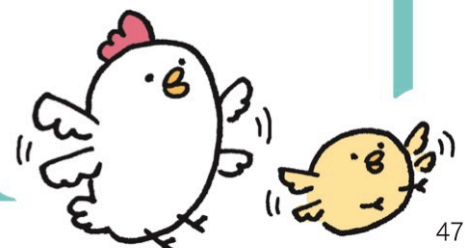
安心できる 場所へ行く

- ひまわり広場(適応指導教室)や居場所
- 不登校の仲間と楽しく過ごす
自分だけじゃない安心感
色んな体験から自信が持てた
- カウンセリング
- 気持ちを話せるようになった
- 通信制、定時制高校
- 自分のペースで進める
色んな経験をする



アンケート結果を見て私たちが感じたこと

子どものありのままを受け入れる事は、不安だらけの不登校の親には、『本当にこれで良いのか?』と葛藤し苦しいことです。でも不登校でこじれた子どもとの関係をもとに戻し、親子の良い関係を築くためにはとても大切なことなのだと思います。そして不登校の親と子どもの辛くしんどい時間も『学校に行けなくてもできることはある』と視点を変えれば、楽しく有意義な時間となるのだと思いました。



無理して頑張って作ってた自分から
自分らしさを取り戻す場所

子どもたちの居場所って?!

学校だけが全てではない。
学校に行かなくて成長はできる。
昼間に学校以外で過ごす「居場所」ってなんだ?



居場所に重要な『三つの間』

空間



屋内、屋外、ネット上、に
スペース【空間】があること

仲間



そのままを受け入れてくれる
(上下関係の無い)【仲間】が
いること

時間



同じ【時間】を共有すること

居場所いろいろ

まずは空間作りから

* 自宅

居心地良く過ごせる環境があること。
親も子どももお互いに。

* 学校内の居場所 (保健室や支援級以外の)

実際にはまだ少ないが希望として多い。
見回りの先生ではなく、理解者や仲間がいる。
不登校児でなくてもホッとできる場所。

* 適応指導教室 (教育支援センター)

公的機関だが地域により内容が異なります。

* 通信制高校内

中学生を受け入れている教室がある。

* フリースクール

個々の状況に合わせた支援。
学校出席扱いにできるところもある。
乙訓にはまだ少ないし費用が高額。

* 放課後等デイサービス (児童発達支援施設)

通所条件、日数の規定がある。

こんな
居場所も!

部活、習い事、アルバイト先、趣味の集まり
地域の子育て関係 NPO など...

大地の場合

『三つの間』が揃い出来上がった居場所

始まりは一人の大きな思いの小さな行動から。

まずは空間が整い、人が繋がり仲間となり、自ら時間を生み出し、まるで化学反応のようにして出来たのが大地の子どもたちも通っている居場所の一つ、来迎寺の寺子屋である。そこで子どもたちは社会性を身につけ、仲間に憧れ、また憧れられて自信をつけ成長していく。素の自分で居られること。そこから新たな仲間を受け入れられるようになる。

仲間を集めて自分たちで 作ることだってできる

気に入った居場所がなければ作ることもできる。
大人も子どももいっしょに企画するイベントが
居場所に。適応指導教室以外の居場所があればと
生まれたサークルだけのご広場や、卓球サークル。
ここでも人との繋がり、出会いによる化学反応が
起きる。

大事です!

お母さんたちの居場所

来迎寺釈迦 fe を借りてのランチ会、小物作り、ウクレレ、
お祭りに参加や親睦会をするための準備の集まりなどなど…。
これら全てにはおしゃべり付き。集まっておしゃべりが
できる空間と仲間と時間が
お母さんたちにもとても大事。



家と居場所、又は複数の居場所によって
それぞれの顔で過ごし、使い分けている。社会性を育んでいる。
今は居場所へ行けない子どものためにも
その居場所は必ずそこはあってほしい。

知りたい！ 通信制高校



もちろん進路は
進学だけじゃ
ないよ!!

中学校を卒業したら、その進路に悩みや焦りを感じる親御さんも多いかもしれません。でも進む先を選べるのはチャンスでもあります。進路の一つ、「通信制・単位制高校」について会員の方々に聞いてみました。

中学校を卒業したら、義務教育が終わり楽になる子どもが多い。決められた学校ではなく自分で自分にあった進路先を選んで進むことができる。親も子も一旦休憩、シフトチェンジのタイミングでもある。

3種類の高等学校

- 全日制
 - └ 学年制
 - └ 単位制

- 通信・単位制
 - └ [※] 全日型(週 1~5 通学)
 - └ ネット型(1年に数日通学)

(※全日制の中でもクラス制、フレックス制、土曜日選択制といった登校スタイルを選択できる高校もあります。)

- 定時制
 - └ 昼間部
 - └ 昼夜部
 - └ 夜間部

通信・単位制高校



特徴は様々、多数の中から自分に合った高校を探そう

→年に数回各校が集まる合同個別相談会あり(例：京都リビング新聞社主催)

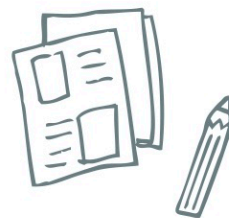
- 私立高校になるので費用は少し高めですが国や自治体の助成金を受けることもできる
- 多くの学校の入学は春と秋。転入・編入はいつでも可能
- 入試はほぼ面接と作文(事前作成)



卒業資格を得るには

- 特別活動 30 時間(ホームルームや修学旅行など)
- レポート作成
- テスト(単位認定試験)
- スクーリング(登校や宿泊体験学習など)

上記をこなし、教科学習 74 単位を 3 年以上で取得する事



アンケート結果より

【選んだ理由】

- ・ 学校や先生の雰囲気、空気感(本人)
- ・ 専門コース、部活、サークルが気に入った(本人)
- ・ 通学しやすい場所(本人・親)
- ・ 不登校生や保護者に対応されきた実績が多い(親・本人)

【行ってよかったこと】

- ・ そのままの自分を受け入れてもらえた
- ・ 勉強もやったら出来たし学校の活動も楽しめた
- ・ 体調に合わせて自分のペースで通学できる
- ・ 小規模、少人数授業、個別対応だった
- ・ 友達関係が近過ぎず遠過ぎず丁度いい
- ・ 好きな専門コースで単位が取れる
- ・ 自由時間が多くバイトや趣味に使える
- ・ 友達やその先に繋がる出会いがあった
- ・ 保護者への学習会もあり学校の考えや方針もよくわかる(親)
- ・ 理解ある職員が多くノウハウを持っている(親)
- ・ 小・中学校での先生たちとは大違いの対応(親)



今だから
気づける

やっしまった対応

今だから
できるかも?!

ひだまり対応



この記念誌を作成するにあたって、会員みなさんにアンケートを実施しました。その中から「今だから気づけるやっしまった対応」と思われるものを10個選び、不登校によって生じた変化やそのきっかけから、よりましだと思える「今だからできるかも?! ひだまり対応」を考えてみました。

子どもが不登校になれば（その兆候が現れれば）、親は誰しもビックリします。当然、感情的にもなり、悲観的に物事を考え、原因・理由を知りたくなり、早い解決・解消をしたいと思います。

でも、時間が経てば、そうした親の対応が子どもを傷つけていたり、子どもの気持ちを尊重していなかったりしていたことに気づいていきます。

「失敗」ではなく、「途中経過」。どんな状態や関係性からでも、親子それぞれの人生を大切に生活をつくり直し、互いの成長と共に自分らしい将来へと歩み始めることを、多くの子どもたちから教えてもらってきました。

より良い対応がよいとわかっても、できないのが現実。そこのしんどさを乗り越えていくために仲間（大地の会）が必要です。

今、不登校の「渦中」にいる子どもたちへの関わり方の参考にしていただければと思います。あくまでも「よりまし」と思われるものです。個々に事情が違うので、オリジナルな対応を見つけていきましょう。

やっしまった?

1 無理やり学校に行かせようとした。学校も来させるようにと言った。

ひだまり
対応

「行きたくない」という気持ちを聴く、「(何が生じているのか)知りたい」「どうしたら良いかを一緒に考えよう」と伝える。「学校はそう言うよなあ」と割り切る。

子どもは、しんどい、辛い気持ちをまだ上手く話せませんが、「わかって欲しい」と思っています。

やっしまった?

7 いじめの疑いがあったのに、学校と確認しなかった。親が中心になっていじめ問題の解決をはかろうとした。

ひだまり
対応

「いじめられているなら辛いよね」「ひとりで抱え込まないことが大切だよ」と伝え、一緒に解決していく態度を示す。話してくれたことを(本人が感じている)「事実」として学校に伝える。

本人の気持ちを聴くことが何よりも大切です。いじめが事実であれば、「重大事態」として学校は対応をしていかなければなりませんので、早い段階での聞き取りが重要となります。

やっしまった?

5 「学校の何が嫌なの?」と聞いた。具体的な理由・原因が知らなかった。

ひだまり
対応

「何か嫌なことがあるんや…」
「話せるかなあ?」「今でなくて良いよ」と伝える。

親が不登校の理由を知りたいのは無理ありません。しかし、シンプルに「理由の一つ」ということはないようです。何年かして気づいて、「あの時は…」と話してくれることを待ちたいですね。

やっしまった?

6 「今日は仕事だから学校に行って」と親の都合で登校を刺激した。

ひだまり
対応

「私仕事の日だし、行くよ」「帰りは〇時頃になるから」と、仕事を大切にしていること、帰宅時間(見通し)を伝える。

親が仕事に行くことと、子どもが学校に行かないことは、別問題です。親の行動予定を伝え、もし「行かないで欲しい」と言われたら、そこから対話が始まります。

誰かが同じように小出入です。でも大丈夫。道は閉ざされていないから。

一概には言えないけど…学校は大切な場所だと思うけど全てではないと思う。

しんどい時は誰かを頼っていいんだよ!!

成功も失敗も五分五分くらいでちょうど良いかも。あなた自身が笑顔で生活できることが大切。

「しんどいよね」と子どもの気持ちに共感してあげてください。絶対大丈夫。

親は完ぺきでなくてもいい。ぶつかり合っても子どもを信じ、応援団でいてもらいたい。

やっちまった

2 「休みたい」と言っても休ませず、じっくりと話を聴かなかった。

ひだまり 対応 //

「休みたい」と言ってくれたことを尊重して「自分で判断したら良いよ」と言う。(休む選択をしたら、返事を期待せずに)「何して過ごしてた？」とフツーに尋ねる。

「休みたい」には理由があるし、親に言い出しにくいはず。学校への連絡(会話)も、子どもは「ちゃんと自分の気持ちを代弁してくれているか?」と、聴いています。日中の過ごし方を心配するのは当たり前のことではないでしょうか。また、ストレスによる身体症状(起立性調節障害や身体表現性障害など)が出ることもあります。

やっちまった

3 「保健室なら…」、「宿題だけは…」、「テストは名前だけでも…」と頼んだ。

ひだまり 対応 //

親の願望としてではなく、「提案」として、その理由も添えて伝えるのはOK。対話を深めて行く糸口になります。

「せめて少しでも…」と親は思っていますが、指示・命令口調では、いずれも子どもにすれば「がんばって行きなさい」と同義語になってしまいます。

やっちまった

4 イライラしているのを見て「止めなさい」と言って、さらにお互いがイライラした。

ひだまり 対応 //

「イライラしてしまうよね」「お菓子でも食べない?」と、(親が)自分も楽になれる方法を見つけて提案してみる。

親も、大切な物が見つからない時はイライラしてしまいますよね。気持ちを切り替えることが必要です。子どもは自分がイライラする理由がわからない(伝えられない)ことでイライラしてしまうこともあります。

やっちまった

8 取り乱して、泣きわめいて、子どもを責めた。「一緒にいたくない」と言った。

ひだまり 対応 //

「(あなたが学校に行けないことを)私も辛く感じるけど、現実の問題として一緒に向き合っていくよ」とがんばって伝える。取り乱してしまったら、後でちゃんと「さっきはゴメンね」と謝る。

感情を出すことは「ダメなこと」ではありません。親のその時の気持ちを端的に伝えられます。でも、後でキチンと謝って許してもらいましょう。新たな関係性を築けます。

やっちまった

9 書籍等の情報を鵜呑みにして、親が対応を変えれば早期に解決すると思っていた。

ひだまり 対応 //

「情報として知っておくことは大切」とインプットしつつ、アウトプットは慎重にする。参考にはするが、そのままは通じないと考える。

情報はあふれていますが、その子にオリジナルに対応している教科書、マニュアルはありません。不登校はその子の「困り」の氷山の一角で、水面下に見えない理由・原因が隠れています。

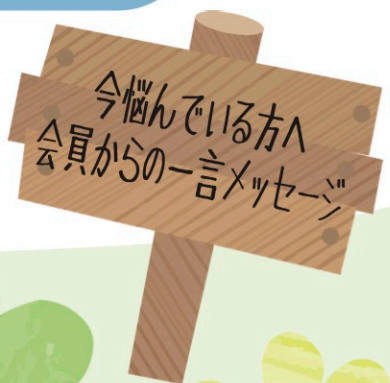
やっちまった

10 いろんな所に相談に連れて行き、疲れさせてしまった。

ひだまり 対応 //

相談に行く→感想を話し合う→その後どうするかは本人が判断する。抱え込まないことが大切であることは共通理解する。

相談先の情報を探することは大切ですが、無理やり連れて行く、言われたことを鵜呑みにして的外れな対応をしてしまう、相談先ショッピングをすることは子ども親も疲れてしまいます。親の会等でいろんな経験を聞きましょう。



一人で抱え込まないで。あなたは一人ぼっちではない。思いをまず伝えてみて。

お子さんのお話をじっくり聴き、本人の意思を尊重してあげてほしい。でも、あなたの気持ちも大切だから、「折り合いをつける選択」をして下さい。

今は不安しかなくて「いろんな人とつながりを持つ」ことで本人が変わるきっかけになるかも。

大地に参カロして小悩みを吐き出して。話を聞くだけでも小悩み解決の糸口が見つかるかも。

小悩んでいる渦中は一日一日が長く、心労が糸絶えないでしょう。でも、子どもは必ず成長します。重さを出します。

身体症状などが現れたら早めに気づいてあげて下さい。子どもがそれ以上辛さを抱えないように。

味方は必ずいるし未来は必ずあるので一人で悩まず誰かに助けを求めてね。

大地の川柳

親の立場、子の立場。様々な句が集まりました。

休みます わかって欲しい 教師陣

帰宅時に 死んではいないか ふと思う

あなたには 話す相手 私だけ

両親は 責めず裁かず 許してくれた

本当は 心配してた 親の健康

不登校 認める大人が 増えて欲しい

両親は 自分の人生 楽しんで

関係ない だけど落ち着く 土日祝

ありがたい 何も聞かない おともだち

諦めない 苦しむ若者 救いたい

着ないまま 小さくなったね 学生服

今日休む？ 私も勇気 いるんだよ

勉強は 今できずとも 大丈夫

しんどいね でもその優しさは 宝物

母たちも めっちゃ成長 子のおかげ

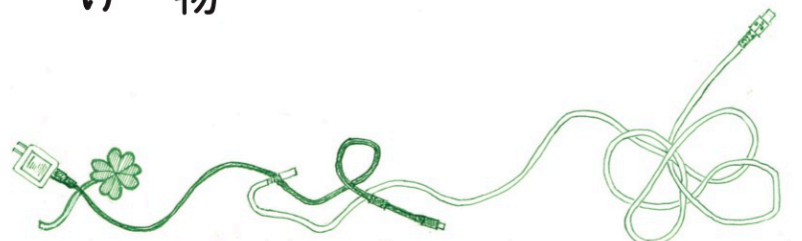
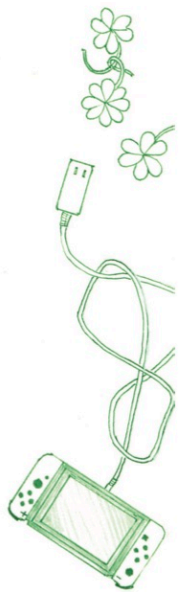
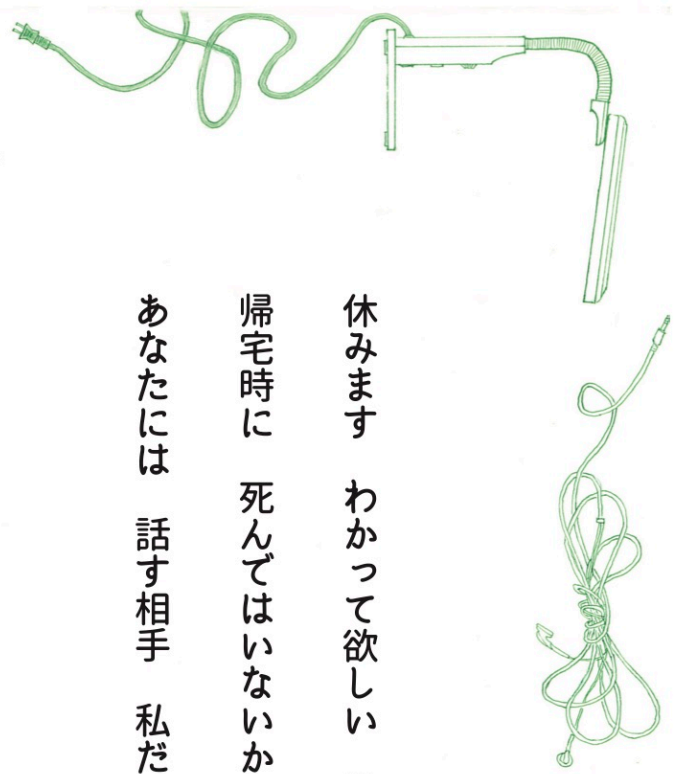
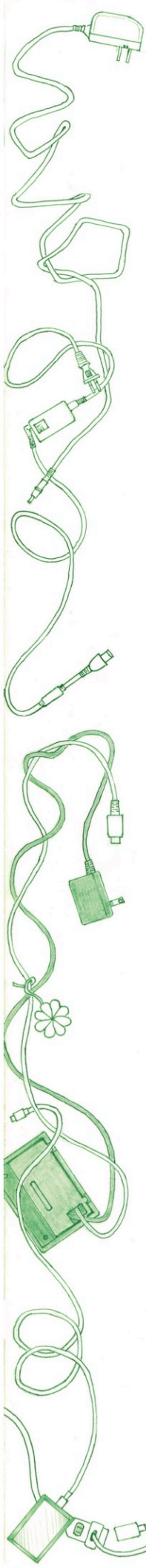
不登校で さらに強まる 親子の絆

振り返り 今なら笑顔 私たち

ありがとう 二つの人生 歩けたよ

人生を 教えてくれた 不登校

不登校 今となっては 宝物



最近の不登校の状況を、文部科学省をはじめとして WEB サイト等で紹介されているデータを引用・抜粋して作成しています。

■「令和 2 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」
(文部科学省初等中等教育局児童生徒課 / 令和 3 年 10 月 15 日)

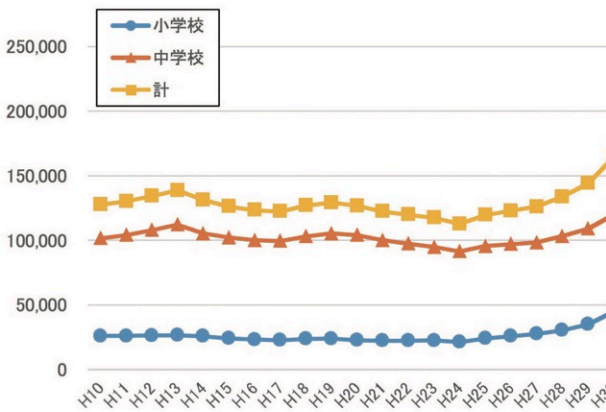
小・中学校の長期欠席(不登校等)の状況

不登校児童生徒数は 196,127 人(前年度 181,272 人)であり、不登校児童生徒の割合は 2.0%(前年度 1.9%)である。

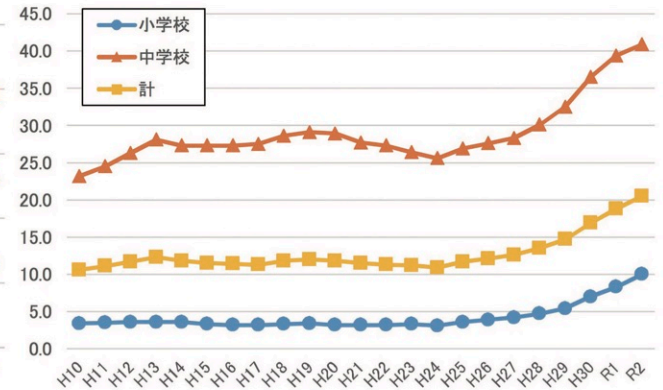
小・中学校における不登校の状況について

小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は196,127人(前年度181,272人)であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は20.5人(前年度18.8人)。不登校児童生徒数は8年連続で増加し、過去最多となっている。

(人) 不登校児童生徒数の推移



(人) 不登校児童生徒数の推移
(1,000人当たりの不登校児童生徒数)



不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
小学校	26,017	26,047	26,373	26,511	25,869	24,077	23,318	22,709	23,825	23,927	22,652	22,327	22,463	22,622	21,243	24,175	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350
	3.4	3.5	3.6	3.6	3.6	3.3	3.2	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	3.1	3.6	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0
中学校	101,675	104,180	107,913	112,211	105,383	102,149	100,040	99,578	103,069	105,328	104,153	100,105	97,428	94,836	91,446	95,442	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777
	23.2	24.5	26.3	28.1	27.3	27.3	27.3	27.5	28.6	29.1	28.9	27.7	27.3	26.4	25.6	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9
計	127,692	130,227	134,286	138,722	131,252	126,226	123,358	122,287	126,894	129,255	126,805	122,432	119,891	117,458	112,689	119,617	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127
	10.6	11.1	11.7	12.3	11.8	11.5	11.4	11.3	11.8	12.0	11.8	11.5	11.3	11.2	10.9	11.7	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8	20.5

※平成10年度調査より不登校児童生徒として調査を行っている。

小・中学校における不登校の状況について

不登校の要因

【国公私立】小・中学校

	不登校児童生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況				本人に係る状況		左記に該当なし
		いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動等への不参加	学校のきまり等をめぐる問題	入学・転入・進級時の不登校	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	生活リズムの乱れ、あそび、非行	無気力・不安	
小学校	63,350	171	4,259	1,187	2,049	153	11	453	1,121	2,408	9,227	1,027	8,863	29,331	3,090
		0.3%	6.7%	1.9%	3.2%	0.2%	0.0%	0.7%	1.8%	3.8%	14.6%	1.6%	14.0%	46.3%	4.9%
中学校	132,777	228	16,571	1,226	8,626	1,428	772	1,061	5,412	3,259	8,168	2,456	14,576	62,555	6,439
		0.2%	12.5%	0.9%	6.5%	1.1%	0.6%	0.8%	4.1%	2.5%	6.2%	1.8%	11.0%	47.1%	4.8%
合計	196,127	399	20,830	2,413	10,675	1,581	783	1,514	6,533	5,667	17,395	3,483	23,439	91,886	9,529
		0.2%	10.6%	1.2%	5.4%	0.8%	0.4%	0.8%	3.3%	2.9%	8.9%	1.8%	12.0%	46.9%	4.9%

※1 「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童生徒全員につき、主たる要因一つを選択。

※2 下段は、不登校児童生徒数に対する割合。

少子化が進む中で増加する不登校の子どもの実態を把握すべく、文部科学省が定義する不登校児童生徒に加え、学校に馴染んでいないと思われる子どもたちの実態について調査を実施。

調査は、2018年10月に中学生年齢の12歳～15歳合計6,500人を対象にインターネットで行いました。その結果、「年間30日以上欠席の不登校である中学生」は約10万人、「不登校傾向にあると思われる中学生」は10.2%の約33万人に上ることがわかりました。不登校である中学生約10万人は文部科学省が各学校、教育委員会からの回答を基に集計して、毎年実施している調査でも明らかとなっていますが、「不登校傾向にあると思われる中学生」の数はその3倍にも上ることが初めて明らかになりました。

今後の不登校対策に大きな意味を持つ数字と思われます。このほか、学校に馴染むことができない理由として、「授業がよくわからない」、「授業内容以外に追求したいことがある」などの意見が目立ちました。

不登校の理由として「先生とうまくいかない」という項目に対して、約4割もの生徒が選択をしています。また文科省の調査では家庭内の理由が上位にあります。日本財団の調査では上位にありません。

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査
調査結果概要

- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は、全中学生約325万人の10.2%にあたる約33万人で、文部科学省が調査した不登校中学生の数の約3倍。約10人に1人が不登校傾向。
【6頁：本調査】
- 中学校に行きたくない理由について、身体的症状以外の要因では「授業がよくわからない」「良い成績がとれない」「テストを受けたくない」など、学習面での理由がみられた。
【10頁：本調査】
- 学びたいと思う環境は、「自分の好きなことを突き詰めることができる」場所、「自分の学習のペースにあった手助けがある」場所、「常に新しいことが学べる」場所など。
【12頁：追跡調査】

3
Copyright(c) 2018 The Nippon Foundation

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査
文部科学省調査（児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）との違いイメージ

- 学校ではなく、子どもから実態を調査。
- 不登校傾向にある中学生（年間欠席数は30日未満）は約33万人と推計。

調査機関	調査対象	人数
文部科学省調査 (学校、教育委員会による回答)	30日以上欠席している生徒（不登校）	10万人
日本財団調査 (中学生が回答)	①-1 不登校: 文科省定義の不登校	10万人
	①-2 不登校: 文科省定義外の不登校	33万人
	② 教室外登校	
	③ 部分登校	
	④ 仮面登校 A: 授業不参加型	
	⑤ 仮面登校 B: 授業参加型	
⑥ 登校		

4
Copyright(c) 2018 The Nippon Foundation

日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査
学校生活をめぐる子どもたちの特徴（タイプ）6群

①-1	不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】年間30日以上（文科省定義内）学校に行っていない	30日以上欠席	10万人	
①-2	不登校	学校に行っていない状態が一定期間以上ある 【主な特徴】1週間以上連続（文科省定義外）など一定程度学校に行っていない	1週間以上連続欠席	33万人	
②	教室外登校	学校の校門・保健室・校長室等には行くが、教室には行かない 【主な特徴】保健室登校、図書室登校、校長室登校、校門登校など 頻度：「月2～3回以上、もしくは1週間続けて」	学校内で行動表出		
③	部分登校	基本的には教室で過ごす、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】給食登校 遅刻や早退が多い。頻度：「1か月に5日以上」 1日に何度か、一時的に保健室などで過ごす			
④	仮面登校 A 授業不参加型	基本的には教室で過ごす、皆とは違うことをしがちであり、授業に参加する時間が少ない 【主な特徴】授業がつまらない、または授業内容とは別に追求したい・学びたいことがある 頻度：「月2～3回以上、または1週間続けて」			学校内で行動非表出
⑤	仮面登校 B 授業参加型	基本的には教室で過ごし、皆と同じことをしているが、心の中では学校に通いたくない・学校が辛い・嫌だと感じている 【主な特徴】行動表出なし。頻度：「毎日」			
⑥	登校	学校に馴染んでいる			

5
Copyright(c) 2018 The Nippon Foundation

■「不登校」の定義

平成 4 年開催の学校不適応対策調査研究協力者会議において、不登校(登校拒否)について、次のように定義され、学校基本調査でもこの定義が用いられています。

「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること(ただし、病気や経済的な理由によるものを除く)をいう」

不登校は、学校基本調査において、年度内に 30 日以上欠席した児童生徒を長期欠席者として、その欠席理由を「病気」「経済的理由」「学校ざらい」「その他」に区分して調査していましたが、その後「不登校」という用語が一般的に使用されるようになり、平成 10 年度から、「学校ざらい」が「不登校」に名称変更されました。

■知っておきたい不登校に関連する法律、文科省のガイドラインなど (それぞれの名称で WEB 検索できます)

○生徒指導・進路指導に関する施策等について(文部科学省初等中等教育局 児童生徒課 / 令和 3 年 2 月)

※文科省初等中等教育局の最新の「まとめ」スライドです。

○不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)(元文科初第 698 号 / 令和元年 10 月 25 日)

《関係報告等》

- ・「不登校児童生徒への支援に関する最終報告～一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進～」(平成 28 年 7 月 不登校に関する調査研究協力者会議)
- ・「児童生徒の教育相談の充実について～学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～(報告)」(平成 29 年 1 月 教育相談等に関する調査研究協力者会議)
- ・「不登校児童生徒による学校以外の場での学習等に対する支援の充実～個々の児童生徒の状況に応じた環境づくり～(報告)」(平成 29 年 2 月 フリースクール等に関する検討会議)
- ・「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律の施行状況に関する議論のとりまとめ」(令和元年 6 月 不登校に関する調査研究協力者会議、フリースクール等に関する検討会議、夜間中学設置推進・充実協議会)
(別記 1)義務教育段階の不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合の指導要録上の出欠の取扱いについて
(別添 4)教育支援センター整備指針(試案)

○不登校重大事態に係る調査の指針について(通知)(27 文科初第 1576 号 / 平成 28 年 3 月 11 日)

○子供の自殺が起きたときの 背景調査の指針(改訂版)(児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議 / 平成 26 年 7 月 1 日)

○いじめ防止対策推進法(平成 25 年法律第 71 号)

○いじめの重大事態の調査に関するガイドライン(文部科学省 / 平成 29 年 3 月)

○いじめの防止等のための基本的な方針 文部科学大臣決定(最終改定 平成 29 年 3 月 14 日)

○いじめ防止対策推進法で定められた、各地方公共団体(市区町村)及び各学校が策定している「いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針」

※「いじめ基本方針」など、名称はそれぞれ違います。

相談

- 向日市教育委員会 「教育相談」
対象：市内在住の児童、生徒や保護者
相談日：火曜日、木曜日 10:00～15:00（要予約）
tel. 075-931-1111（代表）
スクールホットライン tel. 075-931-6060（直通）
- 長岡京市教育支援センター 「教育相談」
対象：市内在住の小、中学生とその保護者
相談日：月～土 9:00～17:00（要予約）
tel. 075-963-5533（相談専用ダイヤル）
- 京都府総合教育センター 「電話教育相談」
毎日24時間対応
tel. 075-612-3268 / 075-612-3301 / 0773-43-0390
- 長岡京市立あったかふれあいセンター
開館日：月～土（日・祝・年末年始除く） 10:00～16:00
※ 相談については土曜日のみ（予約制）です
長岡京市天神2丁目16-2 tel. 075-963-5555
- 放課後等デイサービス 京都西の丘教育相談センター
向日市寺戸町殿長11 tel. 075-921-8700
- 支援塾 コスモス（代表 米澤るみ）児童発達支援・不登校支援・保護者カウンセリング
長岡京市天神4丁目11-19 tel. 090-1411-5088
- 精神保健福祉士事務所 教育と人間関係の相談室カンナ（代表 木下秀美）
向日市寺戸町渋川22 三恵マンション203号室 tel. 075-925-7960



適応指導教室（在籍の学校に相談していただいた上、連絡してください）

- 向日市「ひまわり広場」
教育委員会教育部学校教育課 tel. 075-931-1111（代表）
- 長岡京市「アゼリアひろば」
長岡京市教育支援センター tel. 075-963-5516
- 大山崎町「たけのこ教室」
大山崎町役場 tel. 075-956-2101（代表）

居場所

- 来迎寺 寺子屋（子どもの学習支援と居場所）
向日市寺戸町中垣内27 tel.075-921-0343
- NPO つくしクラブ
長岡京市粟生川久保2-7 tel.075-953-0383
- NPO 法人 おとくにパオ
長岡京市開田4丁目1-12 西和荘1F2号 tel.075-955-4366

親の会

- 子どもと共に育つ親の会「フェリーチェ」
- 子どもの学びを支える親の会「すぷらうと」
- 子どもと親のそだちを語る会「そだちカフェ」 tel.090-3972-6830（タケヤマ）

乙訓不登校を考える親の会「大地」運営規約

第1条(会の目的)

本会は、以下4つの場となることを目的とする。

1. 子どもが不登校・ひきこもりになったという同じ境遇の保護者や家族がお互いを尊重し、安心して悩みを相談・交流し合う居場所とする。
2. 子どもも家族もひとりの人間として、「自分らしい生き方」を見つけ、支え合う場とする。
3. 不登校の背景となっている社会状況を学び理解し、様々な情報を共有し、地域に向けて発信する。
4. 不登校に関する乙訓地域での専門職・支援者・関連機関等とのネットワーク作りや親の会としての子どもの居場所について考える場とする。

第2条(名称)

この会の名称を乙訓不登校を考える親の会「大地」とする。

第3条(事務局所在地)

この会の事務局を代表宅に置く。

第4条(会員)

現在もしくは過去に不登校・ひきこもりであった当事者やその家族、子どもに関する専門職や支援者であることを参加の条件とする。

第5条(役員)

この会に以下の役員を置く。

代表1名 副代表兼事務局1名 会計1名 監査1名

第6条(役員の任期)

役員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第7条(総会)

本会の総会は、正会員を持って構成し、毎年1回開催するものとする。ただし、必要がある時は、臨時総会を開催することができる。

2. 総会は次の次号に掲げる事項について審議し、決定する。
 - ・ 規約、事業等の改廃
 - ・ 事業計画並びに収支予算及び決算
 - ・ 本会の解散
 - ・ 役員を選任及び解任
 - ・ その他本会の運営に関し重要な事項

第8条(運営)

本会は第1条の目的を達成するために、次の各号に該当する活動(事業)を実施する。

- ・ 月1回定例会を開催する。
- ・ うち1回を特別定例会とし、一般を対象とした講演会などを開催する。
- ・ 必要に応じて、関連機関との連携・情報交換を行い、地域における子育てネットワーク作りに寄与する。
- ・ その他、本会の目的を達成するために必要な事項

第9条(会費)

正会員: 2,000円/年(7月以降の入会は1,000円)

賛助会員: 1,000円/年

ビジター会員: 定例会参加する毎300円

第10条(規約改正)

この規約は、会員の過半数の同意をもって改正することができる。

附則

- ・ この会則は、2018年1月1日から施行する。
- ・ この会の設立年月日は2016年12月1日



『僕は僕』（『大地』のうた）

作詞：木下秀美 作曲：木下秀美

僕は僕を生きて行く
君は君を生きてやれ

1. 空に輝く星たちは
自分の位置を知っている
海を渡る鳥たちは
地図もないのに進んでく

いろんな期待もわかるけど
動けなかったんだ
なぜかわからないけれど
考えることが苦しかった

ただ わかってほしい（あなたに）
ただ 愛してほしい（ずっと）
それだけ それだけなんだよ

2. あなたが一人過ごす時間は
あなたに与えられたもの
十人十色 百人百様
千差万別 森羅万象

不安じゃない人っていないはず
大人だってそうだもの
みんな違って良いんだし
違うからこそ素敵だよ

答えはまだ ないけど
何かが見えてるわけじゃない
それでも それでも良いから

3. 家にずっといたいわけじゃない
行きたいところがあれば行くかもね
会いたい人が見つければ
僕はきっと会いに行く

今日の予定は？って聞かないで
明日の予定も聞かないで
わからないから苦しくて
でもあきらめたわけじゃない

ただ わかってほしい（あなたに）
ただ 愛してほしい（ずっと）
それだけ それだけなんだよ

空に輝く星たちは
自分の位置を知っている
海を渡る鳥たちは
地図もないのに進んでく

僕は僕を生きて行く
君は君を生きてやれ

僕は僕を生きて行く
君は君を生きてやれ

©HIDEMI KINOSHITA 2019

こちらから視聴いただけます ▶▶▶
<http://youtu.be/WmSYOcbmvrvw>



僕は僕
『大地』のうた
作詞・作曲：木下秀美

大地定例会のご案内

様々な理由をきっかけに、学校に行けなくなったお子さんがいらっしゃる保護者のみなさん！
私たちは、そんな悩みをもつ保護者がお互いを尊重し、安心して語れる、そんな居場所を作りました。
子どものこと、学校のこと、自分自身のことを話して、不登校という状態について、いっしょに考えてみませんか？

友だちとの付き合いがうまくいかない…
授業中、騒がしくて落ち着かない…
勉強についていけない…
毎日、宿題、塾などの習い事で忙しくて疲れている…
など



当会では、
『教育と人間関係の相談室カンナ』
代表 木下秀美さん
(認定精神保健福祉士、自閉症スペクトラム支援士)に、
アドバイザーとして参加して頂いています。

- ★ 毎月第3日曜10時～12時
- ★ 会場：向日市寺戸公民館1F 和室
- ★ 参加費：300円(お茶代) <会員は無料：年会費2,000円>

参加希望の方は、氏名、連絡先電話番号、お子さんの年齢・学年を記入の上、
右のアドレスまでご連絡ください。 [✉otokunifutoukoudaichi@yahoo.co.jp](mailto:otokunifutoukoudaichi@yahoo.co.jp)



←line@乙訓不登校を考える親の会『大地』に登録して頂きますと、定例会のご案内などの情報をお届けします。
情報発信のみなので、トークはできません。また、個人情報はこちらには知らされることはありません。

編集後記

大地を立ち上げた時は、単純に「不登校の子どもがいる家族の居場所になれば」という思いだけでした。それが、2年目を迎えた頃から参加者が増え、定例会だけでは話さきれないし、もっと交流したいよねという気持ちから、学習会や飲み会から始まり、そして子どもたちも参加できるタコバ、バーベキュー、流しそうめんとイベントを行ったり、お祭りに出店したりするようになりました。それと並行して、子どもたちの居場所が大地の会員さん発信から、地域の方でもでき、子どもたちの交流の場が充実し始めました。活動報告を作成しながら、この5年の歳月の中で、たくさんの不登校の子どもたちとその家族の方たちと出会ってきたなぁと思い出していました。

そして今回、そうしたみなさんのご協力でもって『大地の5周年記念誌』ができあがりました。本当にみなさんの気持ちのこもったあったかい記念誌になったと嬉しく思っています。(MC)

記念誌作成中、体調を崩したりで実行委員会にもあまり参加できませんでしたが、作成のため、歩んできた道を振り返ることで、自分を整理するきっかけを頂きました。子どもの生き方のお陰で、繋がりが合った仲間の温かさを感じる私は、心からみんなにありがとうの花を贈りたいです。

そして、一人でも多くの子どもたちや親が笑顔で過ごせますように。この記念誌が手に届くことを願っています。(GY)

仕事も"親"も、何をやっても半端者の私ですが、大地の皆さんに受け入れていただいたおかげで、こうして仲間に加わられた事、それをカタチに残せた事、とても嬉しく思います。ありがとうございました。(HN)

実行委員を通し我が子たちと時を置き、再び向き合う時間を持たせてもらえたこと、ありがたく思っています。

子どもたちはそれぞれ今の目標に向けて動き出しています。長男は希望する就職が決まり、大変だった小、中時代を思うと社会に出すという私の最終目標達成で感慨もひとしおです。この度の当事者へのアンケートには、「少し先の未来を考えて今の行動をとること。考えることを面倒くさがらず癖づけること。」と、大人の私にも刺さる回答をしてくれました。

『大地』が誕生し、見守られながら過ごした五年間の子どもたちの成長をとっても嬉しく思います。そして私自身もまた成長させてもらいました。関わってくださった皆さまに感謝します。ありがとうございました。(KM)

記念誌の作成をすすめていくなかで話を聞いてくれる人がいること、話す場所があることの大切さを改めて感じました。『大地』がお互いを尊重し支え合いながら交流できる、心安らぐ場であり続けるよう願っています。

私自身活動を通じて出会った仲間、支えてくださる方々には感謝の思いでいっぱいです。いつもありがとうございます、これからもよろしくお願い致します。(OM)

記念誌作成の実行委員に参加して初めて『大地』がどのように立ち上げられたかを知りました。そして皆さんのあたたかい思いが今の『大地』の活動に繋がっているのだと感じました。

私が『大地』に参加して『大地』の仲間からもらった沢山の優しさと、子どもたちの思いの込められた記念誌作りに参加できたことをうれしく思います。この思いが記念誌を通して伝わることを願っています。(FM)

会員のみなさんに書いて頂いた原稿は、今見返してもそれぞれのご家庭、お子さんの日々がありありと目に浮かび胸が熱くなります。

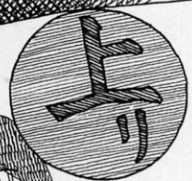
マイナスイメージが強い「不登校」ですが、大地の仲間と共にその周辺を掘り下げ子どもたちを固定概念から外して見つめると、なんて素晴らしい感性を持った子たちなんだ!と気付くことができます。そしてその子どもたちのおかげで親は気付きや成長をさせてもらっているように思います。

この記念誌を作成するにあたり、私自身も普段聞きにくい我が子の気持ちを聞く機会が得られ、改めて成長を感じることができました。まだまだ渦中の親としても、この記念誌はとても心強く、親御さんや子どもたちの素直な想いに共感し、励まされるものになったと思います。たくさんの方々にこの記念誌を届けたいです。

作成にあたりご協力頂いた方々、会員のみなさま、記念誌実行委員の方々に御礼申し上げます。(KA)



乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年記念誌実行委員会



F/30 (2018) 中学1年

	授業日数	欠席	出席	遅刻	テスト
1学期	69	11	58	0	受
2学期	80	20	60	12	受
3学期	51	44	7	5	受

アル会員様ノオ子サンノリアルナ記録デス。

欠席、遅刻ヲシナガラモ何トカテストハ受ケテイラッシャッタソウデス。

R1 (2019) 中学2年

	授業日数	欠席	出席	遅刻	テスト
1学期	67	36	31	28	受
2学期	82	68	14	13	/
3学期	37	37	0	0	/

2019.9.7 不登校フォーラムニ参加後、大地ノ会ニ来ラレルヨウニナリマシタ。

「大地ノ会ニ出会エタ後ダカラコノ状況デモ耐エラレタノカモ…」

R2 (2020) 中学3年

	授業日数	欠席	出席	遅刻	テスト
1学期	47	41	6	0	/
2学期	89	77	12	0	/
3学期	45	40	4	0	/

中学卒業後ハ自分ノペースデ通信制高校へ通ッテオラレマス。

2021年 大地5周年
記念誌を作成するため
実行委員会 発足
★アンケートの実施
6月 大地の新聞
「そのまま」ええねん」第1号発行

今回のテーマは
「不登校とゲーム
について」です



2020年
8月 小山ファームの草抜き
10月 小山ファームにて 秋のおはね振りと 青空卓球

木下先生
ギター弾き語り
今年で44年!!

2020年
7/19 定例会後
『学校から見える不登校
-元校長先生とじっくり
考えよう-』の開催
8/1 来迎寺 寺子屋さん
イベントに参加

2020年
4月・5月 コロナのため
定例会 2回お休み



2019年
7/15 来迎寺での定例会で
大地の歌『僕は僕』が
発表される
7/21 流しうめん @ 来迎寺
竹ざり作り!!

2019年
9/8 第3回 特別定例会
乙訓 不登校 フォーラム 開催
11月 社協まつりに出店
全10回の準備会を経て当日は
子どもたちも参加
★手作りクリスマスオーナメントの販売
洋グリーング、皿まわし体験コーナーなど

2018年
9/18 第2回 特別定例会
乙訓 不登校 フォーラムを開催
★不登校体験者にその時何を思っ
ていたか 語ってもらふことに
10/3 「あらぐさひびき」に出店
12/16 ランク親睦会&ワークショップ
「子どもの居場所」とは

2018年 7/1
親子親睦会 @ 来迎寺
たこやきとみたらし団子を作
り、食したり、カードゲームをし
て交流を楽しむ



2018年 1/23
子育てシンポジウム
『悩んでもええせん せわが子育てで
きている証拠』を他3団体(親の会)と
共同で開催する

2016年 12月より
月に1度 第3日曜日に
定例会を開く
@ 向日市寺戸公民館

2017年 9/17
第1回 特別定例会の開催
★講演『不登校・ひきこりの
子どもへの家族としての関わり方』
講師に 高垣 忠一郎先生を
お呼びする

2017年 12月
大地1周年記念ランク会で 子どもたちが参加
できる交流イベントがあれば...の声がある



のちに
子どもたちの
居場所として
卓球クラブや
ただのこが
発足しますよ

2016年12/1 大地の会誕生

会の名称は
出身校の校歌から
とったそうです



『親の会』を
作ろうかしら

不登校で悩んでる
人たちが相談しあえ
る場が、乙訓にあ
ればいいのに...

いひも

旧友との久しぶりの再会。
子どもが学校に行けない悩みを
互いに抱えていることが
わかったよ。



振出し

大地の会 双六





乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年記念誌
そのままでええねん

2021年12月1日発行

発行/乙訓不登校を考える親の会『大地』5周年記念誌実行委員会

Mail: otokunifutoukoudaichi@yahoo.co.jp